



3.行きは約256m、帰りは約201mを滑空する「ジップスライド」  
 4.「メチャフォレスト」ではジップスライド(既設)のほか、「ネットトンネル」(写真)などが楽しめる  
 5.うんていに似ているが、球体の持ち手がむずかしさを付加する「握力の限界を超えて」(デカイリキ)  
 6.「ワンダーヤマンボー」に配された「岸へむかって」では、イカダを使って岸から岸へと移動する  
 7.芝すべり(写真)やバタゴルフが楽しめる「マウントキング」  
 8.「デカイリキ」の「ゴツゴツ山を越えて」(手前)と「大きな磐のてっぺんで」(奥)。各アスレチックは看板で難易度を示している

施設概要	
所在地	神戸市灘区六甲山町北六甲4512-98
オープン	2021年4月3日
事業主体	六甲山観光株
敷地面積	約23万㎡
アスレチック数	164ポイント(うち、82ポイント新設)
営業時間	10時～17時 ※木曜休園
2021年営業期間	4月3日～11月23日 ※冬季は六甲山スノーパークとして営業。 2022年は3月19日よりオープン予定

<追加料金>	
FOREST チケット(事前予約)	一律 2,000円/1回 ※「メチャフォレスト」ジップスライド」を体験可能
ZIP チケット(当日受付)	一律 1,000円/1回 ※「ジップスライド」を体験可能。 FOREST チケット・ZIP チケットは小学生以上かつ身長110cm以上・体重110kg以下限定

料金表(税込)	
大人	3,000円
学割	2,500円
小学生	2,000円
未就学児(4歳以上)	1,500円
※0～3歳は無料	



## TREND EYES 六甲山アスレチックパーク GREENIA

山上の3施設を統合し、  
陸上・空中・水上を満喫できる  
大型アスレチック施設が誕生

1.水上アスレチック「ワンダーアメンボー」は落ちれば必ず濡れになってしまうスリルも人気要因(施設にシャワー室完備)  
 2.「ヤッホイ」を構成する「ゲームの中に飛び込んで」もユニーク。  
 写真は監修したFischer's-フィッシャーズ-の(左から)マサイ、シルクロード、モトキ

従来は六甲山カンツリーハウスと六甲山フィールド・アスレチックの2施設に入園する際の料金が1400円前後だったのに対して、リニューアル後は施設全体での多彩なアスレチックを価値として打ち出すことでオプションも含めると5000円(いずれも大人1人当たり料金と単価アップを図る。コロナ禍が落ち着くまでは近畿圏を中心に集客し、子ども連れだけでなく若者層も取り込んでいく構えで、初年度の来場者数は約16万人を目標とする。

また、関西でフィットネスクラブ運営を手がけ、六甲山カンツリーハウスでのプログラムや「六甲山スノーパーク」でのスキースクール運営の実績がある(株)サップスと業務提携契約を結び、キャンプや屋外フィットネスなどの体験プログラムを提供する「六甲山アドベンチャースクール」を展開。子どもだけでなく、大人向けのチームビルディングなどでの活用も想定される。

リニューアルにあたっては、旧六甲山フィールド・アスレチックを「ワンダーアメンボー」(40ポイント)、旧フォレストアドベンチャー・神戸六甲山を「メチャフォレスト」(37ポイント)、旧六甲山カンツリーハウスを「マウントキング」(5ポイント)へと再編。さらに、水上アスレチック「ワンダーアメンボー」(30ポイント)、陸上アスレチック

「ヤッホイ」(30ポイント)、筋力系アスレチック「デカイリキ」(20ポイント)を、チャンネル登録者数約665万人(21年4月時点)を誇る動画クリエイター集団「ゴッゴのフィッシャーズ」の監修のもと新設した。ほか、片道200m以上を往復する「ジップスライド」も新たに設けている。

1937年に開業した六甲山カンツリーハウスは、83年間にわたって六甲山の自然のなかのレジャー施設として人気を博し、年間約20万人を集客。近年の、そしてコロナ禍でも楽しめるアウトドアレジャーとしての需要の高まり、さらに六甲山フィールド・アスレチック(78年開業、年間約9万人来場)とフォレストアドベンチャー・神戸六甲山(2019年開業、同約1万5000人)運営での手応えも背景に、全164ポイントを擁す大型アスレチック施設へのリニューアルに至った。